

全国で連日の 侵攻抗議デモ

集会も

ロシアのウクライナ侵攻に抗議するデモや集会が六日、全国各地で開かれた。太平洋戦争中に逃げ惑った自身の記憶と重ね合わせる高齢者も、自作のプラカードを持参した小学生も平和を求めて声を上げた。ウクライナ出身者は「僕の国を助けて」と声を震わせた。

■札幌

札幌市のJR札幌駅前には約二百人が集まり、ウクライナ出身で北海道釧路市在住のゴボロフスキー・セルヒーさん(60)も「僕の国ウクライナを少しでも助けてください」と訴えた。「ロシア人は戦争反対」のプラカードを手にした同国

出身の男性は「この事態に発言するのはロシア国民の責任。こういう戦争は賛成できない」と話した。

■新潟

新潟市内の抗議デモには約二百二十人が参加。主催した市民団体の藤田孝一共代表(68)は「ウクライナの子どもが泣く姿に(太平洋)戦争で母と逃げた幼い頃の自分を重ね合わせ、居ても立ってもいられなかった。どんな理由があろうと、軍事力で攻め込んでほならない」と語気を強めた。

■東京

東京・新宿の集会には、東京都東村山市の小学五年



新潟駅前をデモ行進する市民ら＝6日午前、新潟市で



JR札幌駅前で開かれた集会で抗議する人たち＝6日午前



長崎市の平和公園で開かれた抗議集会＝6日午前



名古屋市の繁華街・栄周辺で抗議する人たち＝6日午後

丸本修介君(6)が、父親の伸さん(60)に連れられ初めて訪れた。自作の「ウクライナに平和を」とのプラカードを掲げ「緊張したけど、多くの人が同じ気持ち

だと分かって良かった」と話した。

■名古屋

名古屋市の繁華街・栄周辺でのデモ行進では、両親

と弟がウクライナにいとこの愛知県津島市の会社員増田ユリヤさん(30)が「父親はロシア出身だが、ロシアの人々も戦争を望んでいないと思う。戦闘が激しいキエフやハリコフにも友人がいて、連絡が取れない人もいる。無事でいてほしい」と涙を拭った。

■長崎

長崎市の平和公園では、

被爆者や若者ら約四百人が集会を開き、ロシアの核の威嚇に危機感をあらわにした。長崎原爆被災者協議会の田中重光会長(68)は、自民党など一部で「核共有」政策の議論を求める声が出ていることに「何を考えているのか。再び日本を七十七年前の惨禍に導こうとしているのではないか」と訴えた。